

はしがき

筆者がまだ40代だった頃、広報活動の一環として各地の高校を訪ねて出張講義をする機会があった。その折に、中学・高校で学ぶ学習文法と大学で学ぶ英語学の違いを、以下のような例を用いて説明した。

- (1) To play tennis is my hobby.
- (2) Playing the piano is difficult.
- (3) I like to play tennis.
- (4) I like playing the piano.
- (5) I know that Mike is from America.

学習文法では、(1)と(3)は不定詞の名詞的用法と呼ばれ、(2)と(4)の動詞のing形は動名詞と呼ばれ現在分詞とは区別される。(5)のthatは接続詞であり指示詞のthatとは異なる。これに対して英語学では次のような分析が可能である。

(1)と(2)の下線部は主語、(3)～(5)の下線部は動詞の目的語であり、すべて名詞性が要求される位置である。To, ing, thatは名詞化接辞として機能しており、(1)～(5)では要素の名詞化が行われている。

講義を受けてくれた生徒さんたちにどのように伝わったかは定かではないが、概ねこのような説明を行った記憶がある。

学習文法は、学習者への配慮といった側面があるものの、言語事実をありのまま記述するというアプローチは記述文法の立場に近く、(1)～(5)に見られる言語現象を「言語要素の名詞化」といった概念で一般化しようとするアプローチは理論言語学の立場に近いと言えると思う。

本書では、筆者がこれまでに大学紀要、雑誌、研究会誌等に発表した論文のうち、語法・文法研究に関する論考をまとめた。これらの論考の立場は、一般化を目指しているものの記述文法に近い。特定の言語理論には依拠していないが、日本語と英語の様々な言語現象を丁寧に記述したうえで、可能な範囲での

一般化も試みたつもりである。

なお、本書を出版するにあたっては、北九州市立大学の2021年度学長選考型研究費B（出版助成）を受けていることを記しておく。

また、株式会社大学教育出版の佐藤守氏と宮永将之氏には、編集に際し、大変お世話になりました。記してお礼申し上げます。

2022年1月

伊藤 晃

日英語における語法・文法研究

目次

はしがき	i
------------	---

第 1 章 指示詞を含む言語形式の接続詞化	1
------------------------------------	---

- | | |
|----------------------|----|
| 1. Thatの接続詞化 | 2 |
| 2. ソ系指示詞を含む言語形式の接続詞化 | 7 |
| 3. 1章のまとめ | 19 |

第 2 章 逆接表現の多様性	21
-----------------------------	----

- | | |
|-------------------------------|----|
| 1. 「ガ節」と認知領域 | 22 |
| 2. ケレドモ節とノニ節 | 26 |
| 3. 「ナガラ節」と認知領域 | 30 |
| (1) Content Domain の「ナガラ節」 | 30 |
| (2) Epistemic Domain の「ナガラ節」 | 30 |
| (3) Speech Act Domain の「ナガラ節」 | 31 |
| 4. 3つの領域の「ナガラ節」の関係 | 31 |
| (1) 「も」の付加 | 31 |
| (2) 主節を明示しない用法 | 32 |
| (3) 「ナガラ節」の主語と主節の主語の関係 | 32 |
| (4) 連体修飾 | 33 |
| (5) 「しかし」との共起関係 | 33 |
| 5. 2章のまとめ | 33 |

第 3 章 「P 中で Q」と「P 中 Q」	37
-------------------------------------	----

- | | |
|-----------------------|----|
| 1. 格助詞を持つ時間節と持たない時間節 | 38 |
| 2. 「P 中で Q」と「P 中 Q」 | 40 |
| (1) 「P 中」と「P 中で」の生起位置 | 40 |

(2) 「P中でQ」と「P中Q」における主張・疑問のスコープ	41
(3) 「で」の有無と名詞節内への収まりやすさ	42
(4) 「で」の有無と副詞節内への収まりやすさ	46
(5) 「で」の有無とある種の副詞との共起関係	48
(6) 「で」の有無とモーダルな表現との結びつき	51
(7) 談話における生起位置	52
3. 3章のまとめ	53
第4章 他動詞と目的語の隣接性について	55
1. 格理論における隣接条件	55
2. 隣接条件の問題点	58
3. 4章のまとめ	66
第5章 前置詞の内部構造に関する一考察	71
1. 前置詞句の名詞的側面	72
2. 前置詞句の形容詞的および副詞的側面	73
3. 前置詞の省略	75
4. 空所化, 重名詞句移動および形容詞句の文末移動	77
5. 5章のまとめ	79
第6章 引用表現をめぐって	81
1. 共起する述語の多様性と付加詞的性格	81
2. 分裂文による引用の可能性	92
(1) 話題導入タイプ	92
(2) 同定タイプ	93
(3) 降格タイプ	94

3. 6章のまとめ 96

第7章 下限設定表現をめぐって…………… 97

1. 「少なくとも」と at least の生起位置 97
2. At least による下限設定 100
3. 「少なくとも」による下限設定 103
4. 7章のまとめ 112

第8章 類義表現「ように」と「かのように」をめぐって 115

1. 「AようにB」について 116
 - (1) Bの説明としてAを引き合いに出す場合 116
 - (2) Bの具体的説明として、その内容Aを示す場合 116
 - (3) BがA状態あることを感知する言い方 117
2. 「～ように」と「～かのように」の統語的な違い 118
3. 「～ように」と「～かのように」の意味的な違い 122
4. 8章のまとめ 125

引用・参考文献…………… 127

■ 凡 例 ■

例文における各記号の意味は以下のとおり。

1. 「#」：談話の冒頭であることを示す
2. 「*」：非文であることを示す
3. 「？」：不自然な文であることを示す
4. 「??」:「？」よりも不自然さの度合いが高いことを示す
5. 「∅」：要素が存在しないことを示す

日英語における語法・文法研究

第 1 章

指示詞を含む言語形式の接続詞化

同一の言語形式が異なった統語範疇^{はんちゆう}の機能を果たすことがある。①では、“yesterday”が名詞句として機能しているが、②では文副詞として機能しており、いわゆる Bare NP Adverb として振る舞っている。

- ① Yesterday was a holiday.
- ② Yesterday, we went to the concert.

同様の現象は、日本語においても観察される。③では、「大阪から」が副詞としての機能を果たしているが、④では、「が」でマークされていることから明らかなように、名詞句として機能している。

- ③ 太郎は大阪から会社へ通っている。
- ④ 通勤は、大阪からが便利です。

①～④で見た例では、同一の言語形式が名詞としても副詞としても用いられる例であったが、以下の例では、⑤において指示詞として機能している“that”が⑥においては接続詞の働きをしている

- ⑤ That is my house.
- ⑥ I know that John is honest.

指示表現が接続詞化するという現象は、日本語ではソ系の指示詞に見られる。

- ⑦ それが一番おいしそうだ。
- ⑧ 太郎は、勉強にもスポーツにも全力で打ち込んでいた。それが今では雀荘に入り浸りだ。

⑦の「それが」は、指示詞の「それ」に格助詞の「が」が付加されたものと分析できるが、⑧の「それが」は、逆接の接続詞として機能している。

本章では、日英語において指示詞ないしは指示詞を含む言語表現が接続表現として振る舞う現象について考察する。英語では、thatを考察対象とし、日本語では、「それが」「それで」「そこで」といったソ系指示詞を含む言語形式が考察の対象となる。

1. Thatの接続詞化

次の⑨、⑩では、thatが指示詞として機能している。

- ⑨ Steve: Thanks, Hiroko. I can't believe how quickly the time has flown by. It feels like I arrived only yesterday.

Hiroko: I know what you mean. Why don't we go for dinner tonight?
I'll buy.

Steve: That's awfully nice, but I can't let you do that. Where I'm from, the man always pays. (*Mainichi Weekly*, Dec. 9th, 2000)

- ⑩ "If the vice president chooses to go forward, he is filing a contest to the outcome of the election," the Republican governor of Texas said on November 26. "And that is not the best route for America." (*Mainichi Weekly*, Dec. 9th, 2000)

一方、次の⑪、⑫のthatは、主節と従属節を繋ぐ^{つな}接続詞の働きをしている¹⁾。

- ⑪ Amid growing concerns that the Netherlands could become a place for patients from abroad seeking to end their lives, Dutch officials stressed that foreigners would be unable to meet strict standards under the law. (*週間ST*, Dec. 8th, 2000)

- ⑫ The survey, which covered some 1,800 high school students in February and March, also found that more of the diary-writing teenagers are thinking about their lives and society than those who do not. Benesse said the result illustrates that teenage girls have a strong inclination to write down their thoughts and feelings, contrary to the widespread view that high school students rarely write things. (*Mainichi*

Weekly, Dec. 9th, 2000)

Hopper and Traugott (1993: 177)は、節と節を繋ぐ機能を持つようになる要素として、名詞、動詞、副詞、代名詞、前置詞や後置詞を含む格形態素、派生接辞およびこれらが組み合わさった句をあげ、指示表現が接続機能を獲得していることを以下のように説明している。

- ⑬ Typical of hypotactic developments (though by no means necessary or diagnostic of them) is the recruitment to connective function of deictics and other demonstratives. The motivation here is the extension of deictic reference from entities referred to in the non-linguistic world to anaphors and cataphors of NPs and then to anaphors or cataphors of propositions (clauses). In other words, deictics may be used for metalinguistic functions involving clause reference in order to achieve overt linking of clauses.

さらに、以下の⑭～⑯のthatは、関係代名詞であり、代名詞と接続詞の機能を担っている。

- ⑭ The revisions are in response to a series of serious crimes committed by teenagers that attracted massive media attention. (*週刊ST*, Dec. 8th, 2000)
- ⑮ This is the first time that a Japanese company has settled this type of issue by establishing a fund that will support not only the plaintiffs, but all 986 people taken to the notorious wartime mining camp in Odate, Akita Prefecture. (*Mainichi Weekly*, Dec. 9th, 2000)
- ⑯ Until the latter part of the 19th century, Kabuki actors owned and took care of their own props. In 1872, Fujinami Yohei started a rental business for Kabuki props that today supplies all the Kabuki theaters in Tokyo. The century-old warehouse of Fujinami Properties Co. Ltd. is stuffed to the brim with swords, ancient armor, umbrellas, etc. that are cared for by specialists. (*Mainichi Weekly*, Jan. 6th, 2001)

関係代名詞としてのthatは、一般に⑭～⑯のように制限的に用いられるとさ

れているが、実際には、以下にあげるように、非制限的に用いられることは珍しくない。

- ⑰ Even in winter, I see very brown young people around town, who look as if they have just returned from Hawaii, and I am reminded of the controversy, that has grown over the years, about the unisex fashion of chestnut hair, tanned skin and sometimes pierced ears. (*Mainichi Weekly*, March 1st, 1997)
- ⑱ Previously, a dynamite explosion in 1960 at the plant killed two workers. Also another blast in 1988, that occurred during the manufacturing process of chemical products, injured one employee, police said. (週刊ST, August 11th, 2000)
- ⑲ Hagua had never witnessed a birth like this before, that took so long after the baby's head appeared. Once again he took both the baby's forelegs in his hands and pulled with all his might. The baby moved just a little. Hagua took heart from this, and continued pulling. (週刊ST, March 9th, 2001)

これらの例では、*that*に導かれた関係節の独立性が高く、*that*の接続詞としての性格が強くなっていると考えられる²⁾。

中尾・見馬（1990）によると、関係代名詞という独立した範疇は、もともと存在したわけではなく、現代英語でも *that* や *which*, *who* などは、第一義的には、それぞれ指示詞、疑問代名詞であり、それらが関係代名詞としての機能を併せ持っていると言え、関係代名詞は、以前から存在した指示代名詞、疑問代名詞の機能と意味を拡張することによって発達してきたものであるとのことである。以下、中尾・見馬（1990）に従って、関係節構造の発達過程を簡単に見てみよう。そのことで、指示詞としての *that* が接続詞化する現象の一端が理解できると思われる。

古英語では、従属構造がまだ発達しておらず、文と文を単に *and* で結んだ並列構造で様々な従属構造の意味を表していた。こうした並列構造において、関係代名詞に似た働きをしていたのは、指示代名詞、*se*, *seo*, *that* であったが、

中期英語に入る前に、これらの指示代名詞による関係代名詞はすべて捨てられ、which, whoなどのwh-関係詞が導入された。現代英語のような関係節構造に至るまでにいくつかの段階を経ているのであるが、これを簡単に図式化すると以下ようになる（Sは文を表し、N_iは同一の人または物を指示する名詞を表している）。

- ⑳ a. [---N_i---] S₁ [---N_i---] S₂
 b. [---N_i---] S₁ [---se---] S₂
 c. [---N_i---] S₁ [se---] S₂
 d. [---N_i [se---] S₂---] S₁

⑳aは、同じものを指す名詞を含んだ2つの文が等位接続された構造である。⑳bの段階では、2つめの文にある同一指示の名詞が繰り返しを避けるために代名詞化されている。この代名詞がS₂の文頭に移動してできたのが⑳cの構造であり、⑳dの段階になると、S₂全体が主文となるS₁の中の名詞すなわち先行詞の直後の位置に移動し、S₂が先行詞の一部として組み込まれ、従属節を形成する。英語の関係節がこのような発達過程をたどったことは、以下のような例が存在することからも裏付けられる。

- ㉑ *smale foweles maken melodye, that slepen al the nyght with open ye*

本例は、⑳cに相当する構造を持っており、先行詞*smale foweles* (small birds)と関係代名詞の*that*が隣接していない。これは、関係節が先行詞の直後の位置から文末へ移動したのではなく、⑳cと⑳dに見られるように、等位接続節から従属節へと発達したことを示している。

指示詞*that*が接続表現として機能する例としては、同要素を含む*that is*や*that said*といった表現の存在も指摘できるかもしれない。

- ㉒ *Outside the church, there are also criticisms like “unquestioning import of American culture” or “Commercialism.” That is, “No thank you” to a noisy Yankee festival just before the quiet holy day of All Saints’ Day. (*Mainichi Weekly*, Dec. 2nd, 2000)*
- ㉓ *Second, the expression “wimp” is sexist. It means, generally, a person of weak will, but it comes from a British slang expression meaning*

“woman.” That is, it presupposes that woman means “weak-willed” and that to say a man is “like a woman” is to insult him. (週刊ST, March 9th, 2001)

②④ “They don’t understand, yet it has scary implications for Japanese society,” he says, pointing out that if the furita way of life spreads, Japan will become poorer. Financially, that is. (*Mainichi Weekly*, Dec. 9th, 2000)

②⑤ The two night spots and some new luxury condominiums have been a welcome addition to this corner of lower Manhattan-to some, that is. Others worry the newcomers are the start of a trend that will push up prices, destroying small stores and the traditional way of life in the mainly Chinese community. (週刊ST, Jan. 12th, 2001)

②⑥ I’ve never been very interested in collecting things like baseball cards, stamps, souvenir spoons from different countries or designer watches. This is still the case. I don’t have too much living spaces, so I try not to buy things that are purely decorative. I also don’t have much money, so I don’t like paying a lot for things that aren’t very useful to me. That said, I have recently collecting quarters. President Clinton signed the 50 States Commemorative Coin Program Act in 1997, stating that the U. S. Mint will issue commemorative quarters of each of the 50 states. (週刊ST, Jan. 26th, 2001)

②⑦ There’s little I can do about the fact that there aren’t whole lot of Japanese people around me. Perhaps I could make more of an effort to hang out with the large Japanese community in the Boston area, but on a day-to-day level, I’m perfectly happy hanging out with my non-Japanese friends, room-mates and lab mates. That said, I have not accepted my gradual separation from Japan in a completely passive manner. My way of maintaining Japanese culture is through reading and writing. (週刊ST, Jan. 19th, 2001)

以上、本節では、英語において、指示詞 *that* が接続表現としても機能することをみた。

2. ソ系指示詞を含む言語形式の接続詞化

日本語には、ソ系の指示詞を含む接続詞がいくつか存在する。以下にあげる「それが」「それから」「それで」「そこで」等がそうである。

- ⑳ 太郎は子どもの頃とても体が弱かった。それが今ではボクシングの県代表だというから驚いてしまう。
- ㉑ 冷戦時代は、キューバからの亡命者は自由の戦士ともてはやされ、米国の市民権を与えられた。それが、いまはすっかり邪魔者扱いである。(庵 (1995b))
- ㉒ 花子は6時頃に帰宅し、それからアルバイトに出かけた。
- ㉓ 和男は卒論に追われて3日間徹夜が続き、それでとうとう体調を崩してしまった。
- ㉔ フードセンターの前の有楽橋でおましてね、それから／それでアノ銀座へ向かっていらっしゃいましてね、電車通りの、一つ、四つ角をね、入りますとすぐ左側ですけど。(浜田 (1995))
- ㉕ 私のは短編だから、いっぺんに渡さなきゃいけないと思うんですけどね。途中でコロコロ変わっちゃうんです、書いているうちに、それで、最後の五枚ぐらいは、いつもドンケツです。(本多 (1999))
- ㉖ 現在の職場は通勤に3時間もかかるために家族と過ごす時間がほとんど取れない。そこで思い切って転職することにした。
- ㉗ すなわち、舌にのっている時間が短くなると、味覚で感じる味もほんのわずかの時間しか刺激を受けない。そのうえ、味の強いものだけが、わずかに味覚に感じるだけである。そこで、食事の早い人は、せっかくいろいろの料理を食べても、ほとんどその料理の味はあじわえていないことになる。(本多 (1999))

このようなソ系の指示詞を含む言語形式については、その接続詞化に文法

化のプロセスを認める分析が先行研究にいくつか見られる。ここでは、庵(1995)と本多(1999)を取り上げる。

庵(1995)は、逆接の接続詞「それが」を中心に分析を行い、接続詞と指示詞の連続性という問題を考察している。同氏があげている例文を見てみよう。

- ③⑥ 健はそれまで病気知らずだった。その健が {a. ?今もやはり元気だ / b. 今は入院している}.
- ③⑦ 健はそれまで病気知らずだった。それが {a. ?今もやはり元気だ / b. 今は入院している}.
- ③⑧ 健はそれまで病気知らずだった。その健は {a. 今もやはり元気だ / b. 今は入院している}.
- ③⑨ ? 健はそれまで病気知らずだった。健が今は入院している.

③⑦の「それが」は③⑥のような「そのNPが」から「テキスト的意味の付与」という機能を引き継いでいる。「その健」から「その」を取り去った③⑨の不自然さから明らかなように、③⑥の主語は「入院することなど信じられない」といった属性を帯びていないと結束性が損なわれるので、単なる「健」では不十分で「それまで病気知らずだった健」でなければならず、この下線部の属性すなわちテキスト的意味をマークするために「その」の使用が義務的になる。「それが」が「そのNPが」から引き継いでいる「テキスト的意味の付与」という機能とは、このようなものである。さらに、値指示のソ系指示詞で人を指すと失礼になるという制約があり、このために「それが」は「そのNPが」とは違って指示性が希薄化して接続詞化する。

接続詞化した「それが」がなぜ「逆接」の接続詞になるのかについては、次のような説明が与えられる。定情報を格助詞すなわち「が」でマークすることは定情報を新情報扱いすることであり、③⑧に観察されるような、接続詞がないときにデフォルト的にとられる「順接」の解釈ストラテジーに反し、そのためデフォルトの解釈ストラテジーの変更という機能を担いうる。これが③⑥のような構文が逆接的意味を帯び、「それが」が逆接の機能を持つことの原因である。

本多(1999)は、発話行為理論的観点から「そこで」の用法分類を行い、

その諸用法の関係を考察している。まず、「指示詞の『そこ』+格助辞『で』」の段階では、場、時点を表す用法がある。

④⑩ 黄金町の駅から、関東学院の方へ行く坂道があるでしょ。あそこまではどうにか行けたの。でも、そこで動けなくなってしまって、そのままじっとしてたのよ。

④⑪ それから三十七年、歴史の回り舞台の上で日本は大きな曲がり角に立っている。今日からの秋の国連総会で安保理の改組が議題にのぼる。そこで日本が常任理事国入りを求めるべきかどうか、という選択である。

④⑪の「そこで」は、④⑩のそれと較べて、より抽象的である。④⑪は時点を表す「そこで」の例である。

④⑫ リカ「ウソウソ、そんな一杯じゃないよー。そいでねそいでね。次がカンチの番になったの」

永尾「…」

リカ「やった、とか思って手を伸ばしたらねー（トーン落ちて）。そこで音楽終わっちゃった」

このような「指示詞『そこ』+格助辞『で』」の場・時点の用法から接続詞「そこで」が派生し、この接続詞「そこで」において、以下のような命題内容間の因果関係による関係づけを行う用法が認められるという。

④⑬ すなわち、舌にのっている時間が短くなると、味覚で感じる味もほんのわずかの時間しか刺激を受けない。そのうえ、味の強いものだけが、わずかに味覚に感じるだけである。そこで、食事の早い人は、せっかくだいりいろの料理を食べても、ほとんどその料理の味は味わえていないことになる。

④⑭ 夜、田んぼの蛙の鳴き声がうるさくて、住民はなかなか眠れなかった。そこで彼は市役所へ電話して、蛙を取り締まる(?)ことを強い口調で依頼した。

さらに、命題内容間の因果関係による関係づけを行う用法から派生したものとして、④⑮、④⑯のような、前文において提示・確認された場面の成立を理由・

前提として後文の発話を提出する用法が捉えられている。

- ④⑤ 問題は、病院、登記などの窓口業務と学校である。これらがいきなり土曜日に休むのは時期尚早だ。世論調査の結果でも、反対はまだ多数派である。そこで、窓口部門の休みが利用者にどんな影響を与えるか、地域ごとにさまざまな試みをしてはどうか。
- ④⑥ 論文が仕上がった。原稿の発送もした。そこで今日はひさしぶりに時間をかけて豪華な夕食をつくってあげよう。

本多（1999）は、このような「そこで」の用法間の意味的關係性を「含意の慣習化（conventionalization of implicature）」や「主体化（subjectification）」といった概念で説明しようと試みている。

先行研究ではこれまで議論されていないようであるが、次例に見られる「それも」もソ系の指示詞「それ」を含み、接続詞として機能していると思われる。

- ④⑦ ニューヨークでも切符がとれないほどの評判だそうだが、わかるような気がする。アニメの「ライオンキング」と違って、生身の俳優がライオンにもハイエナにも扮する。それも縫いぐるみではなく、人間が人形や仮面、竹馬、影絵を使って動物をアニメートする（生命を吹き込む）のだから観客の共感を生むわけだ。（毎日新聞 1998 年 12 月 22 日）
- ④⑧ その中に死んだ人を投げこんだの。あたしは最初は自首するつもりだった。死体が見つかったらきっと大騒ぎになる。警察も青葉会も犯人を捜すだろうって。だけど、恐くなった。もし自首したら、青葉会から仕返しされるかもしれない。それもあたしだけじゃなくてキミちゃんまで…。そう思ったらできなくなった。（大沢在昌『新宿鮫 化水脈』）
- ④⑨ 最近うれしいことがあった。間もなく定年で嘱託勤務になる私に、職場の後輩たちが記念写真を撮ろうと言ってくれたことだ。それも、いつもの仕事場でみんな一緒に、撮るのもプロのカメラマンで、と。（毎日新聞 2000 年 8 月 13 日）
- ④⑦～④⑨のような「それも」を接続表現であると見なすのはなぜかというのは

大きな問題であり、ここで品詞論に深入りすることはできないが、以下にあげる指示対象を持つ「それ」に「も」が付加された言語形式とは明確に区別できるであろう。

⑤① (店先で)「これと、これと……あつ、それもください」

⑤① 水面に映った犬は肉をくわえている。「それもよこせ」と犬はワンとほえた。肉は水中に落ち欲張り犬は元も子もなくしてしまった。(毎日新聞 1999年10月31日)

⑤①では、いわゆる現場指示の「それ」に「も」が付加されている。さらに文脈指示の例を見てみよう。

⑤② 第三に決定的に必要なのは有権者がとにもかくにも選挙に参加するという気迫を持つことである。この気迫が弱ければ政治家や政党のそれも弱く、両者の共同作業がいい加減なものになっても不思議はない。(毎日新聞 2000年6月6日)

⑤③ これが世の中の汚い現実だと俊郎はときどき考えてみるのだが、違法すれすれの商売で飯を食いながら、それもおかしなことだと自嘲して終わるのが常だった。(高村薫『地を這う虫』)

⑤④ そもそも昨日まで司直の側にいた男が、一転して政治家のお抱え運転手になったら何が起こるか。後から考えて、それも当然だと納得したが、運転手になって一週間後には、元の職場の上司から内々の話がやってきたのだ。(高村薫『地を這う虫』)

⑤②の「それ」は、先行文脈に現れる名詞句「気迫」を指しており、⑤③④では、「それ」がそれぞれ名詞節「これが世の中の汚い現実だと考える(こと)」「元の職場の上司から内々の話がやってきた(こと)」を受けている。

接続表現として機能する④⑦～④⑨の「それも」は指示対象を持つ⑤①～⑤④の「それも」と違って、接続詞「しかも」との置き換えが可能である。

⑤⑤ ニューヨークでも切符がとれないほどの評判だそうだが、わかるような気がする。アニメの「ライオンキング」と違って、生身の俳優がライオンにもハイエナにも扮する。しかも縫いぐるみではなく、人間が人形や仮面、竹馬、影絵を使って動物をアニメートする(生命を吹き

込む) のだから観客の共感を生むわけだ。

- ⑤6 その中に死んだ人を投げこんだの。あたしは最初は自首するつもりだった。死体が見つかったらきっと大騒ぎになる。警察も青葉会も犯人を捜すだろうって。だけど、恐くなった。もし自首したら、青葉会から仕返しされるかもしれない。しかもあたしだけじゃなくてキミちゃんまで。そう思ったらできなくなった。
- ⑤7 最近うれしいことがあった。間もなく定年で嘱託勤務になる私に、職場の後輩たちが記念写真を撮ろうと言ってくれたことだ。しかも、いつもの仕事場でみんな一緒に、撮るのもプロのカメラマンで、と。

具体的な指示対象を持つ「それ」に「も」が付加された言語形式においては、「それ」が「さえ」「まで」といった取り立て詞を伴いうるが、接続表現としての「それも」は、このような形で分割されることはない。

- ⑤8 五種類の丼物に続いて大盛りのカレーライスが出てきたが、太郎はそれ(さえ/まで)もたいらげた。
- ⑤9 花子は太郎に旅行がだめなら、せめて食事に連れて行ってくれと頼んだが、太郎はそれ(さえ/まで)も拒んだ。
- ⑥0 *太郎の病気はストレスからくるもので、それ(さえ/まで)も重症です。
- ⑥1 *最近は生物学が盛んだ。それ(さえ/まで)ももっぱら遺伝子とウイルスに関わるものが多い。
- ⑥0⑥1の「それも」は、「しかも」との置き換えは可能である。
- ⑥2 太郎の病気はストレスからくるもので、しかも重症です。
- ⑥3 最近は生物学が盛んだ。しかももっぱら遺伝子とウイルスに関わるものが多い。

伊藤(2001)では、このような「それも」の接続機能の特徴を「しかも」と対比しながら明らかにし、さらに「それも」の接続機能に見られる特異性が、同語が、先に見た「それが」や「そこで」と同様に、指示詞「それ」+とりたて詞「も」が、文法化したものであることに起因するという主張を行っている。以下、拙論の議論を簡単に振り返ってみよう。先にも見たように、接続表現と